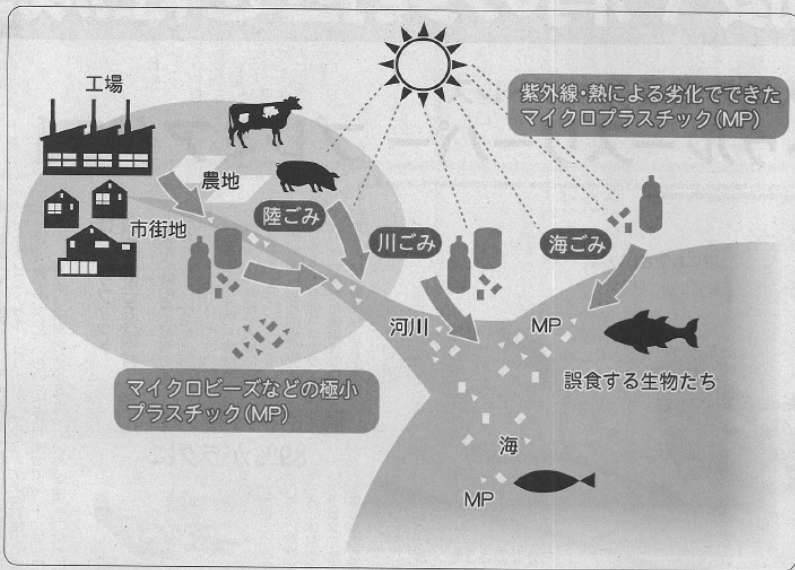
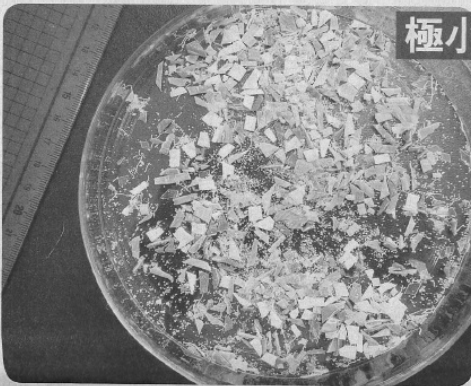


環境特集2019 ②



極小プラスチック汚染



マイクロプラスチックは、プラスチック製品の素材となる極小の物や粒状や繊維状などさまざまな形をしている

マイクロプラスチックは、プラスチック製品の素材となる極小の物や粒状や繊維状などさまざまな形をしている。企業が研究者も実験を積み重ね、安全な製品を開発・販売する姿勢が求められています」と力を込めた。

これはマイクロプラスチックが存在しないと言えないが、利根川は水源が山にあるため安心だと思われ、水連水は水道局が不純物をろ過しているため、現状では国民の健康に影響はないと考えられています。海の魚は内臓を食わず、同じものはかり食べなければ問題はなしでしょう」と助言する。

一方で「海洋ごみが世界を循環するように、人間が出したごみは食物連鎖を循環する。ドイツのように廃棄する、ドイツのよう

実験積み重ね 安全な製品を

小島さん「海を汚さない鉄材の容器に木炭や腐葉土などを入れた「海に森を創るサプリメント・宝高BOX」を新たに開発。東日本大震災でカキの養殖に打撃を受けた三陸の水産業の復活をはじめ、全国各地で豊かな海づくりに取り組むマイクロプラスチックの汚染が問題化してから、メーカーはマイクロビーズの生産を縮小しています。最近ではマイクロビーズの入った歯磨き粉などは販売されなくなっています。企業や研究者も実験を積み重ね、安全な製品を開発・販売する姿勢が求められています」と力を込めた。

脱プラスチック

持続可能な社会を目指して

可塑性が高く安価なプラスチックは、日常生活の隅々まで浸透し、大量に使われ捨てられている。プラスチックごみが細粒化した「マイクロプラスチック(MP)」が海の生態系に及ぼす影響が、懸念されている。安心・安全な水環境をつくる研究や技術開発に取り組んでいる、前橋総合技術ビジネス専門学校長の小島昭さん(75)に「マイクロプラスチック」が環境に与える影響などについて聞いた。

使い過ぎず適正処理を

分解されない 短所が顕在化

プラスチックは軽くて丈夫な長所が目立ってきたが、人の手を離れなくなったとき、自然分解されず残る「短所が顕在化してきた」と小島さんが海で目にするのはこの山。群馬でも橋を湖

周辺を歩けば、捨てられたプラスチックの釣り糸や釣針が、山ほどあふれています」と話す。

現在、海洋汚染の原因の一つとして問題となっているマイクロプラスチック(MP)の定義は、大きさが0.3μmから5mm以内のプラスチック片。マイクロプラスチックには種類がある。洗剤料や化粧品などに使われるマイクロビーズや、プラスチック製品の原料になるレンベレットといった元々極小サイズの物と、ホイ捨てられたペットボトルなどに太陽光

当たり、紫外線や熱で劣化して微細化した物だ。

東京理科大学と愛媛大学の研究グループは、日本全国利根川流域でマイクロ

プラスチックの大規模な汚染調査を実施。26河川でマイクロプラスチックを見つけた。埼玉県久喜市の利根川で1立方メートルに8・68個のマイクロプラスチックが見つかったという。小島さんが示した県の「河川水質モニタリング結果」には浮遊物質(SS)と濁度の結果がある。浮遊物質は水中にある濁度で、以下の不溶性性の粒子状物質のこと。利根川流域の前橋市などで濁度・浮遊物質ともに高い地点がある。

食物連鎖で人間に戻る

「県内の利根川を調査

によって、また人間に戻ってくる。マイクロプラスチックは、ペットボトルのデポジット制を導入したり、学校での教育・体験活動や新聞による国民への啓発も大切。行政は罰則規定を設けて山や海への不法投棄を防ぐ対策をと提言する。

周辺を歩けば、捨てられたプラスチックの釣り糸や釣針が、山ほどあふれています」と話す。

現在、海洋汚染の原因の一つとして問題となっているマイクロプラスチック(MP)の定義は、大きさが0.3μmから5mm以内のプラスチック片。マイクロプラスチックには種類がある。洗剤料や化粧品などに使われるマイクロビーズや、プラスチック製品の原料になるレンベレットといった元々極小サイズの物と、ホイ捨てられたペットボトルなどに太陽光

当たり、紫外線や熱で劣化して微細化した物だ。

東京理科大学と愛媛大学の研究グループは、日本全国利根川流域でマイクロ

プラスチックの大規模な汚染調査を実施。26河川でマイクロプラスチックを見つけた。埼玉県久喜市の利根川で1立方メートルに8・68個のマイクロプラスチックが見つかったという。小島さんが示した県の「河川水質モニタリング結果」には浮遊物質(SS)と濁度の結果がある。浮遊物質は水中にある濁度で、以下の不溶性性の粒子状物質のこと。利根川流域の前橋市などで濁度・浮遊物質ともに高い地点がある。

食物連鎖で人間に戻る

「県内の利根川を調査

によって、また人間に戻ってくる。マイクロプラスチックは、ペットボトルのデポジット制を導入したり、学校での教育・体験活動や新聞による国民への啓発も大切。行政は罰則規定を設けて山や海への不法投棄を防ぐ対策をと提言する。



小島昭さんは「一人一人が原点に立ち戻り、地球にずっと住み続けられるように考え、行動する時代です」と話す。前橋市内を流れる広瀬川